

事業実施の  
目的

大都市ならではの規模や多様性の中で、各学校や園ごとに存在する理念や目標、地域性などを生かしながら、目の前の子どもに応じた架け橋期のカリキュラムマネジメントが実現される。

事業内容  
・成果  
(R4年度)

### 1. 主な取組内容について

**【架け橋期のカリキュラム開発会議】**私立幼稚園園長 2 名 私立保育園園長 2 名 公立保育園園長 2 名 小学校校長 2 名

4回開催し、架け橋期に目指す子ども像の検討と、全市への発信方法について検討した。「問いをもち、問い続ける子ども」「やりたいこと・好きなことを見つけ、試行錯誤（探究）できる子ども」の姿を重視することになった。ただし、それらはあくまでも視点の一つで、カリキュラムを作る対話プロセスこそ重要であり、推進すべきであると決定した。

### 【架け橋期のカリキュラム】

市としては、架け橋カリキュラムデザインシート内に、基盤となる2視点を示した。全市共通で詳細な計画としてのカリキュラムは発出しない。各地区で架け橋カリキュラムを作成できるようにするための、架け橋カリキュラムデザインシートを作成し、市内1800の小・中学校及び保育・教育施設等に周知した。

### 【園・小学校における体制】

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を活用した幼保小の合同研修の開催割合：22%

お互いのカリキュラムを共有し合う研修の開催割合：10%

### 【自治体における体制】

架け橋プログラム調査員の配置（実際の取組情報の収集と、支援を行う）・探究心を育む「遊び」研究会の開催

### 2. 主な成果について

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を活用した幼保小の合同研修の開催割合は、架け橋プログラム開始以前のR2調査時点（6%）よりも上がっており、子どもの育ちをつなぐ幼保小の職員の研修の機会が回復傾向にあることがうかがえる。

事業実施  
地域・  
協力園校  
(R4年度)

**【実施地域】**市内全域

**【協力園校】**※全域実施だがカリキュラム研究推進地区 3 地区を設けている。

幼：私立幼稚園 2 園、私立保育所 1 園、公立保育所 1 園

小：公立小学校 3 校

今後の目標  
(R5年度)

338小学校とその連携園における架け橋カリキュラム作成に伴う対話が充実する。そのために、全区で実施されている幼保小教育交流事業における研修会等における協働的な取組を重視する。架け橋プログラムリーフレットを活用し、具体的に子どもの姿を通した対話を行うことを通して、子ども観や大切にしたい支援策などを共有し、見える化する。また、その取組に対して、こども青少年局と教育委員会事務局が連携し、支援を行えるようにする。

# 架け橋カリキュラムデザインシート解説・使い方

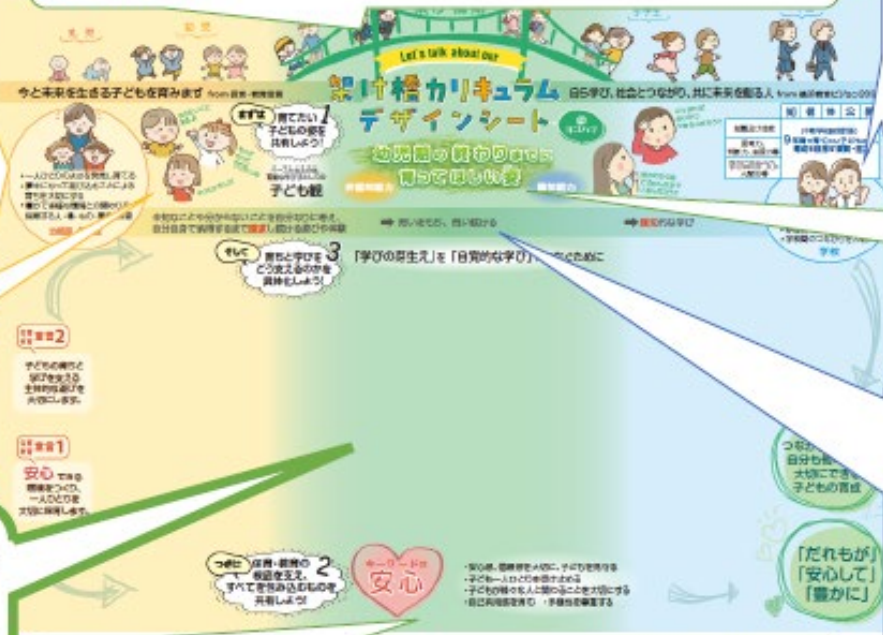
横浜の保育・幼児教育施設では、「よこはま☆保育・教育宣言」に示された「今と未来を生きる子どもを育みます」という子どもの姿、方向性を共有し、日々の実践や家庭、地域との連携に生かされています。

また、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼児連携型認定こども園教育・保育要領では、育みたい資質・能力である「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」を乳幼児期にふさわしい生活を通して育むとされています。

自分のやりたいことを見つける姿、夢中になって遊び込む姿、そんな子どもの姿を大切にしています。

・5歳児・1年生で大切にしたい姿  
 ・共通して大切にしたい体験や活動  
 ・保育士・教諭の工夫  
 ・交流活動の双方のねらい等、架け橋リーフレットの「話題」を参考にしながら、ここをみなさんが作っていきます。

施設の種別を超えて、具体的子どもの姿から、架け橋期の子どもに関わる大人の対話を実現し、育ちと学びを支えるために子どもが安心して渡れる架け橋をつくるのが大切です。



横浜市では、「だれもが」「安心して」「豊かに」という人権教育の理念を様々な教育施設の根幹に据えています。「安心」はどの年代であっても、保育・幼児教育、小学校以降の教育の根拠を支えるものであることを再認識しましょう。

横浜の各学校では、学習指導要領に示された育成すべき資質・能力を整理した三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」と、横浜教育ビジョンで示された、横浜の教育が育む「知」「徳」「体」「公」「開」で表す力を9年間で育てることを目指し、教育課程を編成しています。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、小学校においても子どもの姿から資質・能力の育成を捉える手掛かりとなります。

これまでの幼保小の事例や、カリキュラム開発会議での研究から、子どもが自ら「問い」をもち、問い続けること、解決に向けて試行錯誤を繰り返しながら協働的に学ぶ姿が、架け橋期で大切にしたい姿であることが見えてきました。地区として大切にしたい子ども像は、どのような姿でしょうか。このままでも構いませんし、対話の中で、あらためて架け橋期に目指す子どもの姿を見出していても構いません。

対話したことを視覚化し、カリキュラムにしましょう。



新編を選んで「問1」について思いついたことを書く付箋に書き、紹介し合います。



「問2」について対話しながら、キーワードを付箋で追加したり、直接書き込んでいきます。



「問3」によって、今後の取組を考えながら、大切にしたいことをまとめていきます。

ファシリテーターを一人決めると進めやすいです。

用意するものは、小さめの付箋とペン(カラーペンもあると便利)です。

「問1」はこれでやってみましょう。「問1」から思いつくことを、小さい付箋に一言で書きましょう。付箋の枚数は1〜2枚です。1枚に1つのご意見を書きましょう。「質問」に紹介しながら付箋を貼っていきます。

「問2」………「は？」  
 ・付箋の内容から話を広げます。  
 ・キーワードが出てきたら、付箋に書いて足したり、置換シートに記入したりします。  
 ・共通して大切にしたいことや、子ども像が見えてきたら、言葉に換えます。

※「幼保小の連携プログラム」は、小学校教育を参照しすることはありません。  
 ※「入学までここには行けない」といった制限にならないように注意が必要です。

「問3」………「？」  
 ・今の話から、自分の園や学校で大切にしたいことは？  
 ・共通して育てたい力や、大事にしたい工夫、考え方はどのようなものか？

話をしながら、つながりたり、メモを付け加えたり……

その工夫がポイントだったのでは？

その子どもの姿です。

今回の送付では、令和5年度に入学した児童の全保護者に向けて配布されたリーフレット「安心して入学を迎えるために」(右下)も同封します。

スタートカリキュラムの考え方や、子どもの育ちと学びをつないでいく幼保小連携のイメージが描かれていますので、併せてご利用ください。

